

MIS008-P02

会場:コンベンションホール

時間: 5月27日17:15-18:45

2007年ペルー地震時に見られた発光現象～発光位置特定

Luminous phenomena in 2007 Mw8.0 Peru earthquake: Location of luminous source

田中 章裕^{1*}, 鴨川 仁¹

Akihiro Tanaka^{1*}, Masashi Kamogawa¹

¹東京学芸大学物理学科

¹Dpt. of Phys., Tokyo Gakugei Univ.

本研究では、2007年8月15日に発生したMw8.0ペルー・ピスコ地震時に見られた発光現象が自然現象であるのか、人工建造物倒壊等によって生じた現象なのかを検証する。本地震は、現地時間18時40分、ペルーの首都リマより150km南南西部の深さ39kmで発生した地震である。発生時は、日没後であったが人出の多い時間であったため、市民らの家庭用ビデオ等により多数の発光が記録され、動画投稿サイトYoutubeにて数多く報告された。ペルー地球物理研究所が編纂した本地震に関する論文集(*El Terremoto De Pisco (Peru) Del 15 De Agosto De 2007 (7.9Mw)*, Ed. Hernando Tavera, in Spanish, 2008; http://www.igp.gob.pe/descargas/hjtavera/Volumen_PISCO_150808.pdf)には2本の地震時発光に関する論文が掲載され、いずれの論文もYoutubeで報告された動画は自然現象である見方をしている。しかしながら、我々の調査において、これらの数々の発光は、震央から150kmも離れたLima市内の複数箇所で見られ、発光箇所の特定などの試みから自然現象ではないと推察した。本発表では場所のより正確な特定および他の科学的データに発光の痕跡が見られないか調査した結果を述べる。

キーワード:地震,大気発光,地震発光

Keywords: Earthquake, Atmospheric luminous phenomena, Earthquake light